

J Press Vol. 38

2015年1月1日発行

編集・発行/事業創造大学院大学
広報委員会

Published by Graduate Institute for Entrepreneurial Studies

バックナンバー/広報誌「J Press」のバックナンバーは
大学ホームページからダウンロードできます。

contents 表紙/誌上講義 P2/修了生動向・研究室談義 P3/在学生・修了生紹介 P4/トピックス・インフォメーション等

Faculty interview

誌上講義

「オープンデータと地方創生の考察」

「地方創生」の基本理念を盛り込んだ「まち・ひと・しごと創生法」が、2014年11月21日の参議院本会議で可決されました。第2回まち・ひと・しごと創生本部会議(2014年10月10日)では、IT活用に関して特に(1)Open Data・Big Dataの利活用、(2)農業の産業競争力向上・関連産業の高度化、(3)マイナンバーの活用が示されました。

Big Dataの利活用により、正確で効果的なマーケティングや事業計画・事業予測の他、不正発見やリスク数量化等の便益が期待されています。つまり、Big Dataを、データ資産としてとらえることによって、集合知だけでなくインフラという側面も併せ持つようになりつつあると言えます。

一方、Big Dataの潮流のひとつとしてOpen Dataの動きがあります。Big Dataは公開できない情報(データ)も含まれた概念ですが、Open Dataとは、端的に言えば、自由に使えて、再利用でき、かつ誰でも再配布できるようなOpen Definitionに従うデータです。

高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部(IT戦略本部)は、電子行政オープンデータ実務者会議の「第2回自治体普及作業部会(2014年9月8日)」で、「自治体オープンデータ推進ガイドライン(仮称)」の策定に向けての論点を示しました。

Open Dataの意義として(1)経済の活性化、新事業の創出、(2)官民協働による公共サービスの実現、(3)行政の透明性・信頼性の向上を挙げることができます。

同時に、起業家精神を創発するための施策群をパッケージ化した「アントレ×IT パッケージ(仮称)」の策定が進んでいます。Open・Crowd化により、誰でも世界中を相手にビジネスや社会参加ができます。事業者から見た場合、ITを活用し、事業やデータの一部などをOpen化することにより、多種多様な人々(Crowd)の能力を活用し、自社のビジネスを強化することが可能になってきました。Open Dataを活用した起業家によるビジネスの創出、個人から資金を集める事業(Crowd Funding)、個人に事業の一部をアウトソーシングする事業(Crowd Sourcing)などが多数勃興しています。

さらに、2016年1月から社会保障・税・災害対策の各

分野で共通番号(マイナンバー)制度の導入がスタートします。マイナンバーは、行政を効率化し、国民の利便性を高め、公平かつ公正な社会を実現する社会基盤です。Crowd及び共通番号制度の活用により、電子行政サービスがワンストップで誰でもどこでもいつでも受けられる社会が実現していきます。マイナンバーは、まち・ひと・しごと創生に貢献する大きなキーワードとなってきます。

自治体や企業では、Open Data・Big Data、Crowdの扱いの整備と共に、マイナンバー導入後における特定個人情報の漏えい等のリスクを低減するさらなる対策を求められています。

2014年11月21日、燕市、中央大学、中央コリドール情報通信研究所、新潟情報通信研究所、事業創造大学院大学の5者は、燕市役所個人情報の相互利用の促進を想定し、組織間での個人情報の安全な利活用を支援する組織暗号の公開実証実験を燕市役所で行いました。このように、本学もOpen Data・Big Data活用に向けた研究を進めています。

EUによるOpen Dataの経済効果試算は年間1,400億ユーロです。仮にGDP比で日本に置き換えると、5.4兆円となります。マッキンゼーによる最近の評価では、Open Dataの潜在的利益を1000億ドル以上としています。実利益は全世界のGDPの1%以上という評価もあります。

一方、総務省によると、英国におけるBig Dataの価値(ビジネス効率性・ビジネスイノベーション・ビジネス創出の総計)は、2011年時点で約250.1億ポンドであり、Big Data解析の採用率が増加することで、2012~2017年の累計価値は約2,160億ポンド(同期間の英GDPの2.3%に相当)にまで増加するとしています。また、2011年のEU27カ国におけるパーソナルデータ(ユーザの嗜好、購入履歴、生年月日、国籍等の個人情報)のマクロ経済価値は3,150億ユーロであり、2020年には、9,970億ユーロになると予測しています。

全世界的にBig DataやOpen Dataを活用した新事業・新サービス創出の議論が活発化しています。あなたも新たなビジネスチャンスをつかむために本学と一緒に事業計画の立案を行いませんか。



教学担当副学長・
研究科長・教授

沼田 秀穂

Numata Hideho

【担当科目】
市場調査法
マネジメントサイエンス
演習I・II

電気通信大学院電気通信学研究所博士課程修了、博士(工学)、MBA、専門社会調査士、応用情報技術者。大日本スクリーン製造で営業企画、ソリューション事業等を担当。2002年、シンクタンク系ベンチャーを起業。東京大学先端科学技術研究センター研究員、国立情報学研究所研究員、情報処理推進機構専門委員等を歴任。他大学では、情報分析力1・2・3、プロジェクトワークショップ、数理学、社会調査法、メディア論等を担当。主にICTが社会システムに与えるインパクト研究に従事。



教授
宇田 賢一

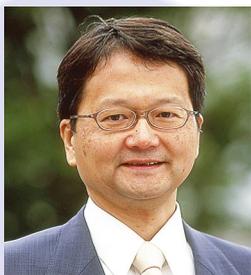
Uda Kenichi

【担当科目】
演習Ⅱ

大阪市立大学法学部卒。
日本生命保険(相)入社。株式運用
畑中心に勤務後、日本ベンチャー
キャピタル株取締役投資部長、事業
創造キャピタル株代表取締役と、20
年弱に亘り一貫してベンチャービジ
ネスへの投資・支援活動に携わる。
極めて実践的で豊富な知識・経験を
有する。

『修了生のその後2』

昨年1月発行の JPress で、ベトナム人修了生について紹介しました。今回は日本人修了生について紹介したいと思います。宇田ゼミではこれまで16名の日本人が修了し、うち起業済み4名・起業準備中が4名います。起業済みの4名については、Aさんは入学前から人財育成事業をスタートしており、現在は事業拡大に向け邁進中です。Bさんは前職でのノウハウと人脈と取引先をベースにブティック型(医療関係)広告代理店を起業し、事業を順調に拡大しています。Cさんは塗料関係の特許を保有するパートナーと今夏に会社を起こしました。事業アイデアをいろいろ模索していましたが、彼自身が化学の修士号を持っており「餅は餅屋」の世界にハマったようです。DさんはNSGの教育事業ノウハウを海外に展開するため、NSGの支援を受けて起業しその拡大に鋭意努力中です。起業準備中4名については、Eさんは福祉関係の事業を起業する予定でしたが、知識・ノウハウ・人的ネットワーク不足を痛感し、福祉関係の大学院に進学し勉強をしています。Fさんは保育事業を起業する予定でしたが、パートナーに不幸があったため一旦延期し、今は保育士として経験を積むとともにネットワークの拡大に努めています。GさんとHさんはネットによる物販及びシステム関係に造詣が深く、前職での経験をベースに起業に向けビジネスプランの検証、深掘を重ねています。以上のようにほとんどの人が、自分の得意な分野で、業界知識・経験・人的ネットワークのある分野で勝負をしようとしています。事業をスムーズに立ち上げ・展開するためには、起業しようとする分野の実務的で実践的な知識・ノウハウ及び人的ネットワークが不可欠です。起業を目指す皆さん、机上のビジネスプランではなく、在学中にビジネスプランを実践し、検証することにより実現可能性を高めましょう。ひとりでも多くの成功者が出るように、敗者が出ないように、これからも一生懸命お手伝いをしたいと思います。



准教授

山田 俊郎

Yamada Toshiro

【担当科目】
中小企業財務論
演習Ⅰ・Ⅱ

同志社大学経済学部卒。
藤森税務経理事務所を経てNSG
グループ創業に係わり(学)新潟総合
学院および(学)国際総合学園にて理
事、専門学校校長を経て、商事、IT
システム、教材開発会社の役員(株)
日本メンター代表取締役社長。専門
学校教育での長年の経験を活かし、
学校法人の内部監査業務、社内
起業を含む起業家支援に従事。日
本ベンチャー学会会員。日本教育工
学会会員。(株)日本内部監査協会会
員(公認内部監査人資格は休止中)。

『地域再生と地域金融』

伝統的金融ではお金は産業の血液ともいわれ、消費経済でも企業経済でも経済発展にビルトインされてきたはずだが、この21世紀に入り役割がすこしずつ違ってきている。

ト・ピケティの「21世紀の資本」という著作の日本語訳が出版されたとか。著作の核心は「資本収益率 r > 経済成長率 g 」を実証したことである。投資収益率は賃金上昇率を上回る、富めるものは富み、不労所得は労働賃金より有利という警告なのだが、出版タイミングが日銀の追加的金融緩和の後、日本のGDP成長率マイナスに加え、アベノミクスを問う衆議院選挙の真っ只中であつたので、注目されたことだろう。

しかし、「起業する金があるなら金融市場で投資・運用したほうが魅力的である」では、起業家教育を担うものとして困る。経済成長の伸びしろは地域にあり、農林水産業の6次産業化、里山再生、街中活性・空き家解消、中小企業事業承継・再生など事業当事者が生み出す将来価値に期待し投資に向かう中で、見えざる手が働き、富めるものの富はそこそこに収束すると思いたい。

最近、地域の先進的仕組みのファンドの中に修了生の名前を見つけて感激したのだが、投資家は国・地方と金融機関それに事業当事者であっても地域の消費者・預貯金者が直接投資するスキームにはない。多様なリスクに合わせた地域金融のイノベーション・金融商品といえば、メザニンファイナンス、デットIR、市場型間接金融と流通市場化などあるが、消費者・預貯金者を直接地域投資に組み込む例は少なく、「〇〇優勝」連動金利の定期預金、インターネット活用で生産者と結びついた地域産品のファンドや会費制頒布会、マイクロファイナンスのほうが目立つ。

すなわち、地域経済の再生と伸びしろには、消費者・預貯金者を組み込む地域金融のイノベーションとブレイクスルーが期待されるとしよう。

日本に留学しMBA取得を目指す在學生に、入学動機や将来目標をお聞きしました。

Student interview

在學生紹介



レ・ティ・フイエン・チャンさん
Le Thi Huyen Trang
ベトナム・ハノイ貿易大学卒
(2014年4月本学入学)

Q 入学した動機について教えてください。

A 私は子供の頃から日本が好きで、大学時代は経営を専門に学びながら、日本語を外国語科目として勉強しました。ハノイ貿易大学で学んだ専門知識を仕事の実践的な場面で活用したいという考えを持っていました。そこで、卒業してから、日系の銀行で働きましたが、国際業務に関する仕事を行う時、相手の習慣ややり方を良く理解しなければ、効率性を高め、かつ良い成果が得られないことを実感し、日本の大学院に進学することを決意しました。そんな中、ハノイ貿易大学の先生方や在日している留学生の先輩方によるアドバイスをお聞きし、日本人と外国人が共に勉強し、ディスカッションや事業計画書の作成を通じて切磋琢磨できる学習環境を提供する事業創造大学院大学に、進学することを決意しました。

Q 学んでいる科目について教えてください。

A 事業計画を立案する為には、必要な科目を取らなければなりません。1年生の私は、必須科目である「ビジネスプラン作成法」、「マーケティング」、「経営戦略」等を学びました。その他に、興味のある分野の科目として、「コーポレートファイナンス」、「市場調査法」、「イノベーションA」、「アジア経済とビジネス戦略A」なども学んでいます。ハノイ貿易大学でも学んだ土台となる基礎知識は同じですが、事業創造大学院大学の授業では、先生方から世界や日本の事例をよく説明していただいたり、また地域の企業担当者をゲストスピーカーとしてお招きし、お話や経験などを直接聞く機会もありますので色々なことが学べます。

Q 演習と事業計画書（ビジネスプラン）について教えてください。

A 現在は、沼田秀穂先生のゼミ（演習）で「ベトナムにおけるリサイクルショップの開業」というテーマについて研究しています。私は日本に来てから、中古品ショップの経営方法について、強い関心を抱くようになりました。一方でベトナムでは、環境問題が深刻になっているにも関わらず、ベトナム人にはリサイクルを行う習慣自体がまだ浸透していないのが現状です。原因は何であるか、また、どうすれば日本のように中古品を利用する風潮が生まれるのか。私は、どうすればベトナムでも普及するのかについて、ゼミの先生とゼミ生達とともに学んでいます。大切なのは、演習を進めていく際、すべての科目における経営知識をフル活用することです。ゼミを通して様々な経験を学んでいます。

Q MBA取得後の将来の目標について教えてください。

A MBA取得後は更なる経験を積む為、日本国内で就職するつもりです。日本企業の文化やビジネスマナーを学び、体験することで、ベトナム帰国後は、日本とベトナムの経済関係発展のため積極的に貢献したいと思っています。そして、日本以外にも他のアジア諸国の架け橋となれるよう、友好関係を築いていきたいと思っています。



ファン・スアン・ハインさん
Pham Xuan Hanh
ベトナム・ハノイ国家大学
外国語大学卒
(2014年4月本学入学)

Q 入学した動機について教えてください。

A 私が日本に留学した理由は、新たな経験、知識を身に付けながら、自ら成長していきたいというのが主な理由です。ベトナムという国の中だけで過ごすよりも、若いうちに海外で経験を積み、国際的な視野を学んだ方がよいと考えました。世界有数の経済力と最先端の技術力を持つ国である日本へ留学することにより、多くの貴重な知識を学ぶとともに、独立心や誇り、そして仕事に対するまじめな態度など、ビジネスで成功するために必要となる大切な要素を修得できると考えました。こうして日本の大学や大学院の情報を調べる中、事業創造大学院大学が私が描く希望や夢に向かうために適した大学院であることを知り、事業創造大学院大学へ進学することで経済や経営知識を深め、日本が成し遂げた経済発展のためのコツなど学ぶことによって、世界や社会との関係がより一層、広がるのが期待出来るものと思い入学しました。事業創造大学院大学では、修了すると同時にMBA・経営管理修士（専門職）の学位が授与されますので、大学院で修得する知識を生かし、将来はベトナムの経済発展に貢献したいと考えています。

Q 学んでいる科目について教えてください。

A 私は事業創造大学院大学で、日本企業のビジネスモデルやマネジメントについて研究・学習をしたいと考えています。そのため、入学後は、「経営学概論」「経営戦略」「マーケティング」「ビジネスプラン作成法」「コーポレートファイナンス」「イノベーションA・B」「経営組織A」「アジア経済とビジネス戦略A・B」などの科目を学んでいます。大学院では、講義やフイー

ルドワーク、ケーススタディを通じて、成功又は失敗事例を学ぶことができ、日系企業の特徴や経営理念、経営戦略やビジネスモデル、イノベーションや人材マネジメントなど大変ためになる実用的な知識を修得することができます。これにより、私自身の知識や視野が広がり、将来のビジネスに役立つ糧になるものと感じています。また事業創造大学院大学の授業では、ただ単に聴くだけの授業ではなく、発表したり、チームワークを生かしたチーム対抗によるディスカッション形式の授業も取り入れているため、日本人と留学生同士が国際的な視点から物事を捉える機会があるので互いに異文化理解が進み、人的なネットワークを築くことができます。

Q 演習と事業計画書（ビジネスプラン）について教えてください。

A 私は、現在、五月女政義先生の演習Iで「日本留学のためのコンサルティング国際事業体の設立」をテーマに研究しています。こうした研究に基づき、将来的には日本とベトナムの架け橋となれるような事業を実現するべく、人材育成を担う国際交流ビジネスを展開し、グローバルな視野と、高い勤労意欲・高度な能力を兼ね備えた若い人材の育成に寄与したいと考えています。毎週一回、指導教員である五月女先生に対して自分の計画書の進捗度を発表しますが、先生からは不足する課題を指摘していただき、次はどうすればいいか？等のアドバイスをもらうことができます。研究中に、もし何か分からないことや困っていることがあれば、先生はいつも助けてくれます。

Q MBA取得後の将来の目標について教えてください。

A 将来の目標として、私はベトナムで留学生コンサルタント会社を立ち上げて、多くの留学生がベトナムの経済発展のために、活躍できる機会を創ることに全力を尽くしたいと考えています。この事業を通し、日本企業にグローバルな視野と、高い勤労意欲・高度な能力を兼ね備えた若い人材を豊富に供給することにより、日本とベトナムにおける相互発展に貢献したいと思っています。そして、相互理解に基づく未来の越境関係をより緊密にし、友好的に発展させていく事に貢献できれば幸いです。

日本に留学しMBA取得を目指す在学生に、入学動機や将来目標をお聞きしました。



グエン・ティ・フエン・チャムさん
Nguyen Thi Huyen Cham

ベトナム・ハノイ大学卒
(2014年4月本学入学)

Q 入学した動機について教えてください。

A 私が事業創造大学院大学に入学しようと思ったきっかけは、ベトナムの大学（ハノイ大学）で少しばかり勉強した経済学や経営学についてもっと理解を深め、世界に通用する経済学や経営学を学びたいと思ったからです。ハノイ大学の授業では、経済学の一つである「貿易」について勉強し、「日本へのオートバイ輸出」をテーマとしたレポートを提出しました。どうすれば日本で商品が売れるか？を市場調査、商品決定、取引先信用調査、輸出契約、外国為替予約、通関手続き、船積み等を想定してレポートを作成しましたが、本当に事業として成立するのか等の疑問点がたくさんありました。きっと専門的な経済学の知識さえあれば、この疑問も解決できたであろうと思います。私は事業創造大学院大学で、「経営管理修士（専門職）MBA」の学位を取得し、それを活かしたビジネス分野において、将来、ベトナムの経済発展に貢献したいと考えています。

Q 学んでいる科目について教えてください。

A 現在、一年生として、世界に通用する、経済や経営の基本的な知識を身に付けるべく、色々な科目を学んでいます。「経営学概論」や「経営戦略」、「マーケティング」や「市場調査法」、そして「ビジネスプラン作成法」など多岐にわたります。事業創造大学院大学では、興味を持つ分野に関する科目や学びたい科目を自由に選択出来ます。そして、秋学期からゼミ（演習）が始動し、先生やゼミの皆さんから沢山のコメントやアドバイスを頂けるため、自分が計画するビジネスプランを改めて見つめ直すこともでき、大変役立っていると感じています。

Q 演習と事業計画書（ビジネスプラン）について教えてください。

A 私が立ち上げたい事業計画書のテーマは「ベトナムの手工芸品を活かした小さなSPA（製造小売業）ブランドの設立」です。私の考える自社のビジネスモデルは、ベトナムの自社工場・提携工場において、自社デザインによるシルク商品や小物を製造し、日本で販売する方式です。ベトナムには北部から南部まで工芸品の製造工場が約1500か所もあり、多様な商品が提供出来る環境下にあります。この利点を利用して日本人に人気のある洋服やハンカチ、ネクタイやクロスの小物など、シルク系とシルクに刺繍を施した商品開発に取り組んで行きたいと思っています。また、この事業は、自国の発展を支援し、そして貧困問題の解決にも繋がる可能性を秘めた社会的にも大変意義のある事業であるものと期待しています。

Q MBA取得後の将来の目標について教えてください。

A 私はこの事業創造大学院大学で「経営管理修士（専門職）MBA」の学位を取得後、ビジネスマナーをはじめ、日本人の考え方が良く理解でき、コミュニケーションがとれる人となれるよう、日本で数年間働きたいと考えています。日本の文化を色々体験しながら、日本独自の習慣も深く理解していきたいと思っています。帰国したら経営学の専門知識を活かして自分の事業を展開し、ベトナムの経済発展に貢献したいと思っています。



リ・ブンリウさん
李文

中国・吉林建築工程学院城建学院卒
国際外語・観光・エアライン専門学校出身
(2013年4月本学入学)

Q 入学した動機について教えてください。

A 2012年、私は新潟の国際外語・観光・エアライン専門学校で勉強していたとき、大学時代の先生から「事業創造大学院大学」の話を知りました。そして同じ日本語学校で卒業した先輩が事業創造大学院大学で勉強していることを知っていました。私の大学専攻は基礎日本語ですが、経営について興味も持っていました。その後、事業創造大学院大学の資料等を調べて本学の「実現するための経営」という教育理念に感動しました。私の夢は自分の飲食店を作ることですので、こちらで必要な知識を勉強することができる事業創造大学院大学を選びました。

Q 学んでいる科目について教えてください。

A 私は「経営戦略」、「マーケティング」、「ビジネスプラン作成法」などの科目を履修しています。事業創造大学院大学は学生が自分のビジネスを立ち上げることを最終目標として設定している為、ビジネスを起業するために必要な知識を授業で学ぶことができます。

Q 演習と事業計画書（ビジネスプラン）について教えてください。

A 演習と事業計画書はまるで卒業論文と同じものです。基礎科目から始め、より応用的、実践的な発展科目へと進みます。演習では、各自のテーマに従って事業計画書の作成を進め、起業や新規事業の企画、立案、推進が可能なレベルの成果物を生み出すことを目指しています。

Q MBA取得後の将来の目標について教えてください。

A 私の将来の目標は事業創造大学院大学で勉強した知識を活用して自分の夢を実現することです。中国で安全、安心な飲食店を多店舗展開したいと思っています。

在学紹介

働きながらMBA取得を目指す在学生やMBAを取得された修了生に、演習や事業計画書における取り組み、今後の目標などについてお聞きしました。

— Student interview —



若桑 正樹さん
Wakakuwa Masaki
株式会社アイビーシステム
(2014年4月本学入学)

Q 入学した動機について教えてください。

A 私は2013年6月までの2年間、ベトナムの商業都市ホーチミン市に製造拠点を構える企業に「海外での経営、組織作りなどの勉強」をさせていただくため居留しておりました。帰国後は父が経営するIT企業へ入社しました。ベトナムでお世話になった社長様から帰国後は「経営学を学べる学校が新潟にあるから通った方が今後の人生の強みになる」と紹介していただいたのがきっかけで事業創造大学院大学を知りました。座学だけではなくグループワークやグループディスカッションが多くあり、様々な意見を交換し合いながらコミュニケーションが取れ、自分の成長につながると考え入学を決めました。また、日本人だけではなく海外からの留学生も多く在籍し、グローバルな面でも充実しているのも入学を決めた動機の一つです。

Q 学んでいる科目について教えてください。

A 春学期には「経営学概論」「財務会計論」「IT基礎技術」「リスクマネジメント」など7科目を履修し、秋学期には「アジア経済とビジネス戦略B」「市場調査法」「イノベーションA」「企業倫理」など7科目を履修しています。春学期の「リスクマネジメント」では、グループを作り企業様に訪問し、その企業様がどのようなリスクヘッジを行っているのかを調査します。また企業コンプライアンスの事例などから自社ではどのようなリスクが起ころうのかを考えます。秋学期の「イノベーションA」では様々な企業のケーススタディーを通じて、自社ではどのような付加価値が生み出されているのか、競合と比較してどの部分に強み・弱みがあるかを分析し、事業戦略の有効性や改善の方向を学んでいます。

Q 演習や事業計画書(ビジネスプラン)について教えてください。

A 現在弊社は地域密着型を強みにシステム開発を行っています。「お客様が求めている」「お客様に合った」「お客様のための」システム開発をお客様と共に」を弊社のバリューとしています。私の事業計画は海外アウトソーシングでシステム開発(オフショア開発)を行う事です。急激に発展しているアジア市場への進出のためにアジア経済を専門とする富山教授のゼミに所属しました。富山ゼミでは各自が考えている事業計画を先生やゼミ生の皆さんに発表をし、自分では気づかなかった問題点、改善点、アイデアを新たに発見するためにブレインストーミングを行っています。海外進出によって弊社のバリューをさらに広い範囲に提供することができるように事業計画を考えています。

Q MBA取得後の将来の目標について教えてください。

A 近年、時代の移り変わりとともにビジネス環境が変化するスピードはどんどんと速くなってきています。また、近代ビジネスにはシステムというパートナーが必要不可欠な時代です。国内外問わずシステムインフラはこれからさらに速いスピードで進化を続けて行きます。時時刻刻と変化する時代に対応できる事業をMBAホルダーとして会社のため、お客様のため、社会のためになるような提案をしていかなければならないと思っています。視野を幅広くアジアや世界に向け、幅広い枠で勝負できるような企業作りを行っていきたくと考えています。

修了生紹介



鈴木 聡さん
Suzuki Satoshi
公益財団法人にいがた産業創造機構
経営支援グループ 市場開拓チーム
シニアチーフ
(2010年3月本学修了)

Q 社会人として大学院で学びなおすに至った経緯を教えてください。

A 日々業務をこなす中で、よりレベルアップした仕事をやりたいと思い、大学院で理論を学び、さらに過去に中国に留学していた経験を活かして海外を舞台としたビジネスモデルを作りたいと思い、職場で公募されていた事業創造大学院大学での研修を希望し、学ぶ機会をいただきました。

Q 大学院で学んだことが現在の仕事や実社会で役立っていると実感するケースはどんなときですか？

A 実際に仕事で役立っているのは、今も母校の事業創造大学院大学とつながりを持っていることです。昨年度、私の担当業務の中で国際ブランド展開があり、外部有識者から意見を求める機会があった際、有識者の一人として地域・国際担当副学長の富山先生に参加していただき、貴重な御意見をいただきました。逆に、今年度は富山先生から私に依頼をいただき、国際ブランド展開に参加している企業の社長を紹介し、富山先生の講義「アジア経済とビジネス戦略」にゲストスピーカーとして参加してもらい、現場の貴重なお話を聞かせていただくことができました。母校とのつながりから、とても有意義な展開が出来たと思っています。

Q 事業計画書(ビジネスプラン)の作成にあたって社会のニーズをどのように捉えましたか？

A 事業計画書の作成時は、私が留学していた頃に「世界の工場」と言われた中国が、BPO(ビジネス・プロセス・アウトソーシング)で、コールセンター業務などを請け負う「世界のバックオフィス」としても勃興していた時期でした。

中国で働いている友人からの情報だけでなく、事業創造大学院大学にも多くの留学生がいたので、主に中国人留学生と意見交換するなどして、社会のニーズを探り、新しいビジネスプランを作り出していました。

Q 大学院修了後に、今改めて抱く目標や展望を教えてください。

A 現在の業務は、生活関連産業を中心に県内のものづくり企業の支援を行っています。具体的な業務、国際ブランド展開、見本市・百貨店出展、デザインコンペティションの開催など多岐にわたります。担当している業務を通じて、県内のものづくり企業の素晴らしさを広く伝えていきたいと思っています。

ベトナム修了生と本学教員による「同窓会設立に向けた交流会」を開催

国際交流活動報告

2014年11月27日、ベトナムハノイ市内において、本学教員および事業創造大学院大学を修了後、母国ベトナムで活躍する修了生約30名とともにハノイ同窓会設立に向けて交流会が開催されました。修了生の多くは、ベトナムで自ら「起業」を実践し、自社の代表・社長として活躍する者、あるいは日本と関わりのある企業・組織内において新たな事業変革・事業創造を担う者等、まさに多方面で活躍されています。

2006年の開学から数えて今年(2015年4月)で10周年を迎える本学では、これまでベトナムの交流協定校3大学(ハノイ貿易大学、ハノイ国家大学外国語大学、ハノイ大学)を中心に、およそ80名近くのベトナム人が留学されました。交流会では、それぞれの近況報告の他、修了生同士が新たなビジネスの創出に向けて盛んに情報交換が行われました。



ハノイ同窓会設立に向けた修了生-本学教員間による交流会の様子(ハノイ市内)

本学の客員教授を務め、第一線で活躍中の経営者の方による特別講義を開催

特別講義報告

株式会社てっぺん

代表取締役 大嶋 啓介 客員教授

10月25日(土)、株式会社てっぺん 代表取締役 大嶋 啓介 氏(客員教授)を講師にお迎えし、特別講義を開催致しました。大嶋 啓介 氏は、日本の飲食業界で大変注目を集めている居酒屋「てっぺん」の創業者であり、「てっぺん」独自の「公開朝礼」がテレビや雑誌等で数多く取り上げられ、日本中で話題となっています。今では年間約1万人の方が「てっぺん」に朝礼見学を訪れるほどとなっており、その勢いは日本国内だけでなく、韓国や台湾など海外からも多くの方が「本気の朝礼」を見学に訪れています。当日は、「究極のリーダーセミナー」～成果を出せる本気のチーム創り～をテーマに「夢を大切に生きる生き方」、「仲間を大切に生きる生き方」を熱く語っていただきました。



日本ブランドアソシエイツ株式会社 代表取締役社長 豊隅 優 客員教授

11月15日(土)、日本ブランドアソシエイツ株式会社 代表取締役社長 豊隅 優 氏(客員教授)に教壇に立っていただき特別講義を開催致しました。豊隅 優 氏は、1990年世界最大のブランドコンサルティンググループであるインターブランド社の日本法人の創業に参画し、同グループの日本人トップとしてあらゆる業種業態のブランディングプロジェクトに取り組みしました。その数は約1000プロジェクトに及びます。2009年1月、20年のブランドコンサルティング経験を活かし、日本ブランドアソシエイツ株式会社を設立し、現在に至ります。今回は、「ブランディング 成功のヒント」というテーマでご講義をいただき、ブランディングの動きやブランディングの重要性、成功のヒントを世界対応の視点から語っていただきました。



INFORMATION

体験授業

本学では、入学を希望・検討されている方を対象に、体験授業を開催いたします。体験授業終了後には、専任教員との懇談や個別相談の時間も用意いたします。将来起業を志す方、事業承継者やビジネスリーダーを目指す方を対象に広く公開しております。是非この機会にお気軽にご参加ください。(参加無料・要予約)

2015年 1月24日(土) 13:30~15:30



『人工知能と人類との戦い』
～コンピュータが社会に及ぼしていくインパクトの考察～

教学担当副学長・研究科長・教授 沼田 秀穂
【担当科目】 市場調査法/マネジメントサイエンス/演習I-II

2015年 2月14日(土) 13:30~15:30



『「顧客満足」はもう古い!』
～これからのマーケティング～

地域・国際担当副学長・教授 富山 栄子
【担当科目】 アジア経済とビジネス戦略A/アジア経済とビジネス戦略B/マーケティング/演習I-II

■体験授業 タイムスケジュール

13:15~ 受付開始
13:30~13:45 事業創造大学院大学の概要説明
13:45~14:45 体験授業
14:45~15:00 入学試験に関する概要説明
15:00~15:30 施設見学・個別相談(※希望者のみ)

「税法演習・会計演習」説明会のご案内

本学では、税理士を目指されている方を主たる対象として、現在、「税法演習」を開設していますが、2015年度から新たに「会計演習」も開設します。本学の演習では事業計画書の作成指導を行います。「税法演習」では税法に関する論文の作成指導、「会計演習」では会計に関する論文の作成指導を行います。尚、所定の科目および「税法演習」、「会計演習」のいずれかを履修し、修士論文を作成して、本学を修了すると、「税法演習」履修の場合は、「税理士試験の税法科目2科目の免除」を、また、「会計演習」履修の場合は、「会計科目1科目の免除」を申請することが可能となります。(修了後、国税審議会に申請し、認定を受けることにより、受験が免除されます。)

2015年 1月24日(土) 10:30~12:00(受付10:15より)

※「税法演習」、「会計演習」いずれかの履修を希望される方は、必ずご参加ください。
※都合がつかない方には、個別相談も受け付けております。
《参加無料・要予約》 担当 准教授 鈴木 広樹

【説明会の概要】

1. 事業創造大学院大学について
2. 「税法演習」、「会計演習」について
3. 税理士試験科目免除申請について

入学試験

2015年春学期(4月)入学

※本学と交流協定を結ぶ海外の大学出身の方については、右記の日程とは別に入学試験を実施いたします。

出願受付期間	入学試験日
2/2(月)~2/11(水)	2/21(土)
2/16(月)~2/25(水)	3/7(土)
3/9(月)~3/18(水)	3/28(土)

※詳しい大学院情報をご希望の方は、下記までお問い合わせください。大学院のパンフレット及び募集要項等を無料でご送付いたします。



事業創造大学院大学

〒950-0916 新潟市中央区米山 3-1-46
TEL 025-255-1250 FAX 025-255-1251
URL <http://www.jigyo.ac.jp/>
e-mail info@jigyo.ac.jp